

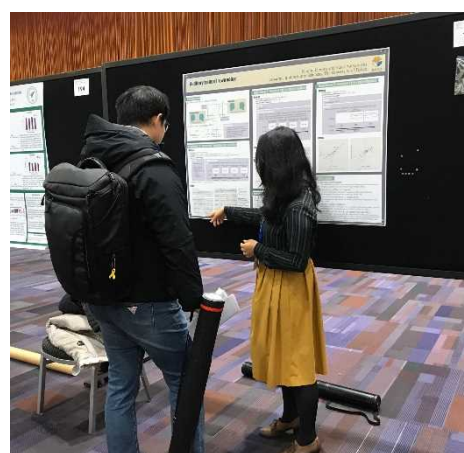
## Psychonomic Society 58<sup>th</sup> Annual Meeting 参加報告

広域科学専攻生命環境科学系 修士二年 木村真理乃

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受けて、2017年11月9日から12日にかけてバンクーバー（カナダ）で開催された Psychonomic Society 58<sup>th</sup> Annual Meeting に参加した。当学会は11月に年次大会を開催し、認知心理学を専門とする研究者たちを中心に基礎心理学分野の研究が発表・議論される。参加者は会員2500名以上を含む数千人にもなり、北米最大級の大会である。著名研究者による口頭発表や多岐に亘る分野のポスター発表だけでなく、若手研究者同士の交流会など発表時間外におけるイベント等も精力的に開催している。

今大会で私は Auditory (聴覚) セクションにおいて「Auditory traits of “own voice”」という題目でポスター発表を行った。本研究では、録音した時に聞こえる自分の声と、普段自分自身が聞いている自分の声の違いに着目し、3つの実験を行った。実験1では、自分の聴いている自分の声の再現、実験2では口を動かしている時の自分の声評価、実験3では自分の声らしさと不気味の谷現象の関連性について検討した。不気味の谷現象とはロボット工学分野で提唱された理論であり、人間ではないと区別できるが、ある程度人間と外見が似ている人工物に対して、人間は不気味に感じるという。人工知能技術が著しく発展する昨今、不気味の谷現象も併せて注目されているが自分の声と関連付けた研究は現在まで散見されなかった。

発表時には聴覚研究以外を専攻とする多くの参加者の関心を集め、結果や考察部分の詳細なコメントを得た。また、実験着眼点のユニークさや、ロボット工学分野から提言された理論とも関連付けした新規性などを好意的に評価され、本研究について議論することができた。今大会で得られた貴重な経験や有意義なコメントを自身の研究に活かし、より一層研究に邁進する所存だ。



学会会場（左上・左下写真）、ポスター発表時の様子（右写真）